

「依存は生き方の問題」

浦添 薬物講習で森さん

脱法ドラッグや覚せい剤など薬物について正しい知識を身につけてもらおうと県は29日、浦添市でだこホールで教育関係者らを対象に講習会を開いた。詰めかけた約100人の来場者は薬物依存症の危険性や現状について理解を深めた。

講習会では、薬物依存症者の回復を支援する「沖縄ダルク」の森廣樹代表理事が自身の薬物依存体験を語った。森代表は「やめてから12年経ても薬物の感覚を脳がはっきり今も覚えている。薬物依存から抜け出すた



森廣樹さん

めには仲間との共同作業など達成感の得られる活動が必要」と説いた。また「何かに頼らざるを得ない依存体質は生き方の問題。そこを見直さないと回復できない」と指摘した。

九州厚生局沖縄麻薬取締支所の松田圭郎捜査課長は薬物の現状について「以前は暴力団関係者などを通じてでないと入手が難しかったが、今はインターネットで簡単に手に入ってしまう」と説明し、「薬物は1回だけ使っても犯罪。誰かに勧められても断る勇気を持つことが大事だ」と述べた。

参加した北谷高校養護教諭の仲里志奈さん(37)は「薬物情勢は刻々と変化している。今日学んだことを他の教員や生徒たちに伝えていきたい」と話した。